

「関東甲信越」など緩やかな回復基調～消費による地域経済の下支えは続くか？

2023年7月 大和地域 AI（地域愛）インデックス

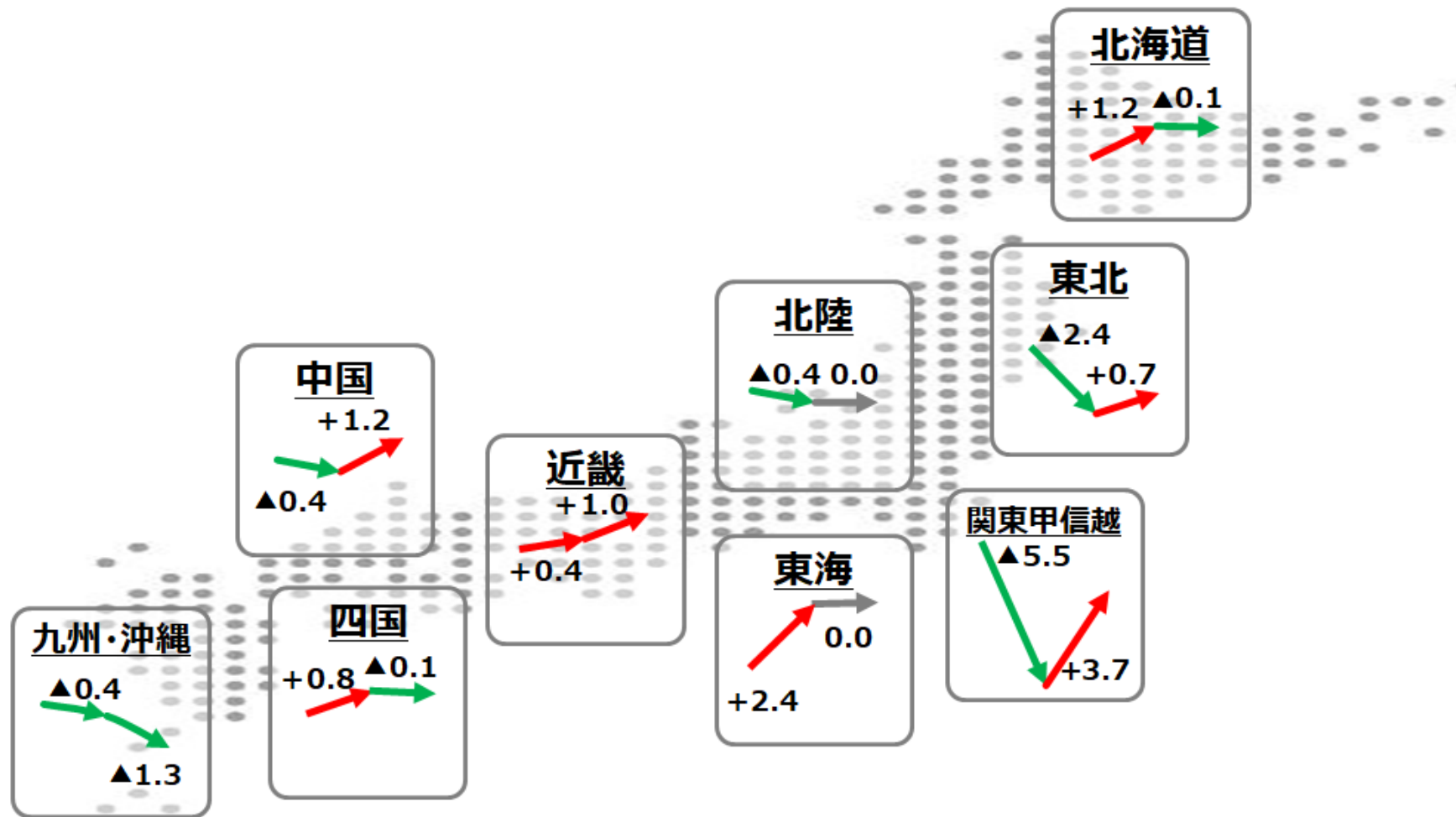
経済調査部 主任研究員 溝端 幹雄
主任研究員 新田 堯之
研究員 中田 理恵

[要約]

- 2023年7月の大和地域 AI（地域愛）インデックスは、「関東甲信越」を筆頭に「中国」「近畿」「東北」で改善したが、「北陸」「東海」は横ばい、「九州・沖縄」「北海道」「四国」では悪化した。
- 分野別に見ると、家計関連のインデックスは、消費が「東北」「中国」「近畿」などで改善した。特に「東北」では、コンビニエンスストアの売上や乗用車の新車登録台数、飲食・宿泊などのサービス消費が改善している。一方、「九州・沖縄」「四国」では改善している分野もあるが、家電販売の悪化が消費全体を押し下げている。また、住宅投資は販売価格の上昇によって「関東甲信越」で前回より悪化している。そうした中、雇用・所得環境は「北海道」でわずかに改善したが、他の地域で前回から大きな変化はなかった。人手不足による賃上げの動きもあるが、物価高の影響もあり、以前よりも消費の増勢は鈍化しているようだ。企業関連では、企業マインドが「関東甲信越」「中国」「東海」「北陸」「近畿」など多くの地域で改善した。全国的に宿泊・飲食サービス、食料品、輸送用機械などで改善傾向を示している。設備投資はデジタル化・脱炭素化・省力化・経済活動の正常化を背景に、「四国」「東海」で改善が見られた。一方で、生産は「関東甲信越」で改善したものの、「東海」「北陸」「北海道」「九州・沖縄」では悪化しており、地域で違いが見られる。特に「北海道」では、輸送機械や電気機械、「北陸」では生産用機械において生産が悪化している。輸出と公共投資は前回から大きな変化はなかった。
- 全国的に見ると、地域経済は緩やかな回復基調にある。消費は従来ほどの増勢は見られないものの、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の5類移行に伴って外出機会が増加しており、緩やかな改善が期待できる。また、企業の業績回復や市場拡大を見込んで多くの地域で企業マインドが改善しており、これが設備投資を下支えするだろう。一方で、生産は特に海外における需要低迷などの影響を受けやすく、地域により異なる動きが見られる。今後も地域経済は回復基調が続くと予想されるが、引き続き、経済活動の正常化等に伴う物価上昇と賃上げの好循環の持続性や海外経済の動向などは注視する必要があるだろう。特にここ暫くの間、地域経済を下支えしてきた消費の今後の動きについて見守る必要がありそうだ。

※ 本レポート作成にあたって、大和地域 AI（地域愛）インデックスのモデル開発はデータドリブンサイエンス部 DS アナリティクスチーム、データ集計作業はリサーチ業務部データバンク課が担当している

大和地域 AI(地域愛)インデックスの推移 (23年1月→4月、4月→7月)



(注1) 各地域の数値は、2023年1月から4月の変化幅と2023年4月から7月の変化幅。

(注2) 矢印の赤は上昇、グレーが横ばい、緑が低下。

(出所) 日本銀行資料より大和総研作成

ヒートマップ：大和地域 AI(地域愛)インデックスの分野別寄与度（23年4月→7月）

	地域AI	需要項目				生産	企業 マインド
		消費	住宅投資	設備投資	輸出		
北海道	▲0.1						
東北	+0.7						
北陸	0.0						
関東甲信越	+3.7						
東海	0.0						
近畿	+1.0						
中国	+1.2						
四国	▲0.1						
九州・沖縄	▲1.3						

(注) さくらレポートの個々の文章に対して分野を設定し、大和地域AIインデックスに対する寄与度を算出。

「赤」が濃いほどプラス寄与、「緑」が濃いほどマイナス寄与。主要な分野を記載。

(出所) 日本銀行資料より大和総研作成

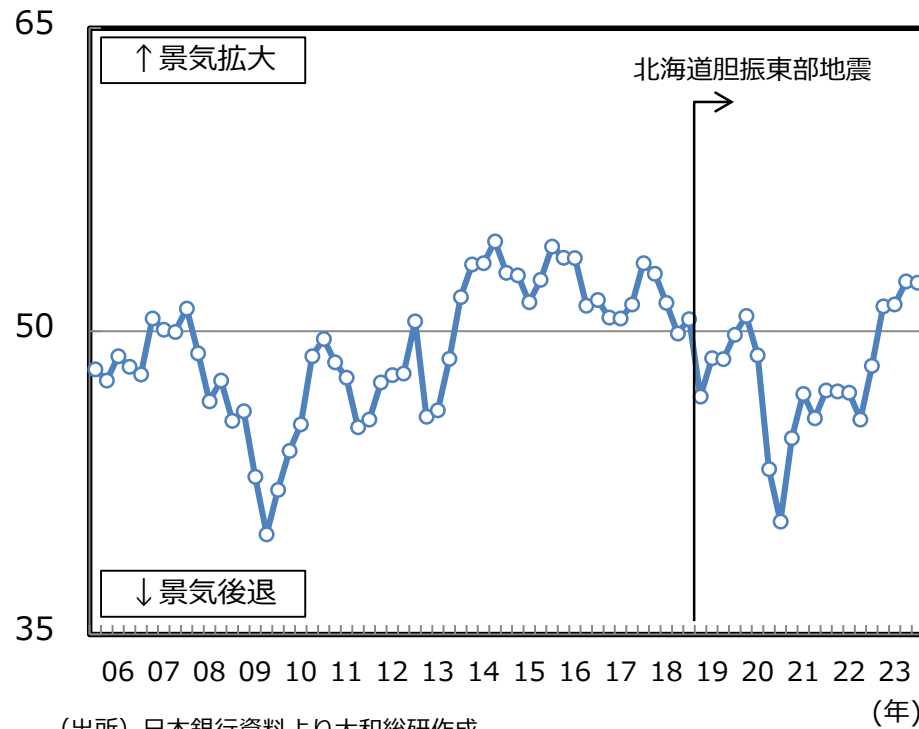
大和地域 AI (地域愛)インデックスの変化 (23年4月→7月) とポイント

北海道	大和地域 AI インデックスは、5 四半期ぶりに下落した(23年4月:52.5→7月:52.4)。生産が中心となってインデックスを押し下げた。
東北	大和地域 AI インデックスは、3 四半期ぶりに上昇した(23年4月:48.1→7月:48.8)。消費と企業マインドの改善がインデックスを押し上げた。
北陸	大和地域 AI インデックスは、前期から横ばいであった (23年4月:50.7→7月:50.7)。企業マインドなどが改善した分を生産の悪化が打ち消した。
関東 甲信越	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した(23年4月:46.6→7月:50.3)。住宅投資が悪化したものの、企業マインドや生産が改善したため、全体としてインデックスは上昇した。
東海	大和地域 AI インデックスは、前期から横ばいとなった (23年4月:52.1→7月:52.1)。企業マインドや設備投資などが改善した分を生産の悪化が打ち消した。
近畿	大和地域 AI インデックスは、4 四半期連続で上昇した(23年4月:50.7→7月:51.7)。企業マインドや消費などの改善がインデックスを押し上げた。
中国	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した(23年4月:50.7→7月:51.9)。企業マインドや消費の改善がインデックスを押し上げた。
四国	大和地域 AI インデックスは、5 四半期ぶりに下落した(23年4月:51.3→7月:51.2)。設備投資が改善した一方で、消費が悪化した結果、インデックスは小幅に低下した。
九州・ 沖縄	大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で下落した(23年4月:53.5→7月:52.2)。住宅投資は小幅に改善したが、消費及び生産などの悪化がインデックスを押し下げた。

北海道経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、5 四半期ぶりに下落した(23 年 4 月:52.5→7 月:52.4)。
- 生産が中心となってインデックスを押し下げた。
- 生産を業種別に見ると、輸送機械の中国向け受注残の解消と需要の低迷、電気機械の自動車向け製品の需要低迷と在庫増加などが観察された。なお、雇用・所得環境はわずかに改善している。

大和地域 AI インデックスの推移



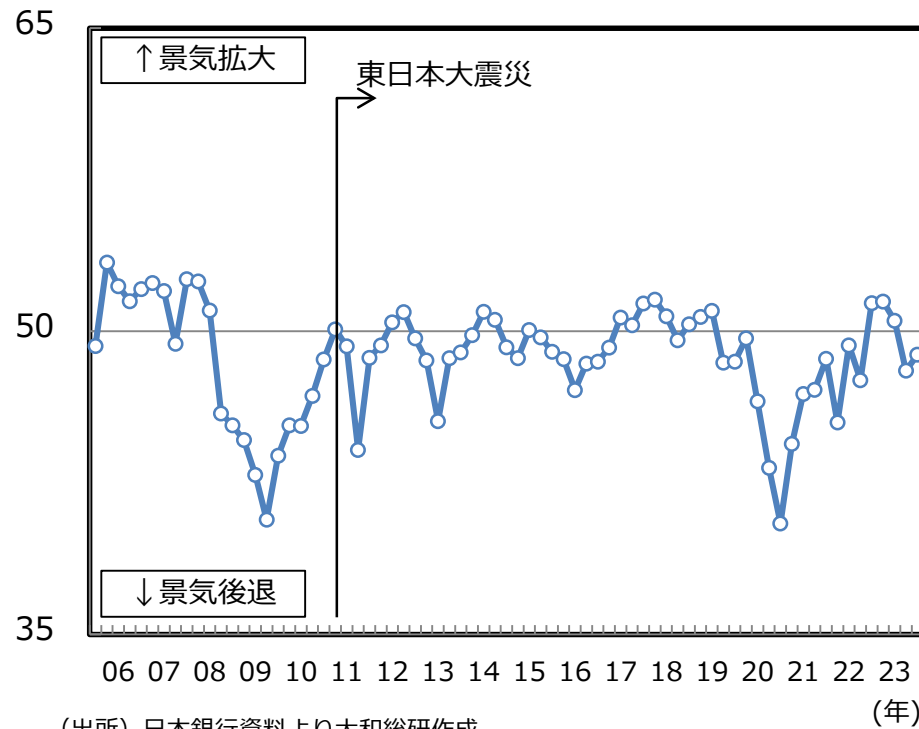
さくらレポートにおける分野別の判断

23 年 4 月	23 年 7 月
【総括判断】	→
緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
【消費】	→
緩やかに増加している	緩やかに増加している
【生産】	↓
横ばい圏内の動きとなっている	横ばい圏内ながら、一部に弱めの動きがみられる

東北経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、3 四半期ぶりに上昇した(23 年 4 月:48.1→7 月:48.8)。
- 消費と企業マインドの改善がインデックスを押し上げた。
- 消費に関しては、コンビニエンスストアの来店客数増加、乗用車の新車登録台数の持ち直し、飲食・宿泊を中心としたサービス消費の回復、などが見られた。また、金属製品、食料品などの業種で企業マインドは改善した。

大和地域 AI インデックスの推移



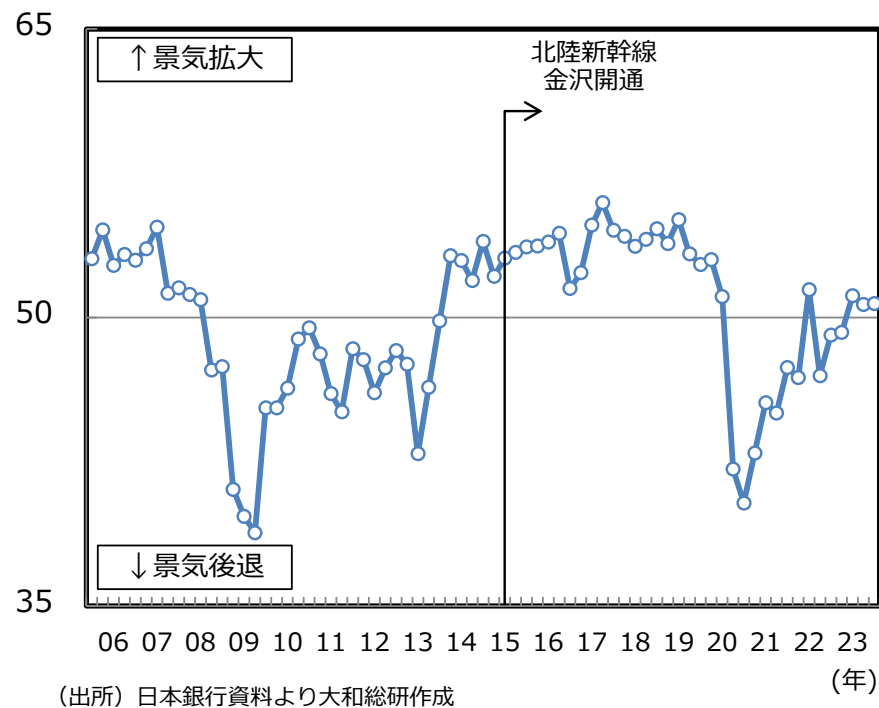
さくらレポートにおける分野別の判断

23 年 4 月	23 年 7 月
【総括判断】	→
一部に弱さがみられるものの、基調としては緩やかに持ち直している	一部に弱さがみられるものの、基調としては緩やかに持ち直している
【消費】	↑
持ち直しの動きが進捗している	緩やかに回復している
【企業の景況感】	↑
悪化している	横ばいとなっている

北陸経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、前期から横ばいであった (23 年 4 月:50.7→7 月:50.7)。
- 企業マインドなどが改善した分を生産の悪化が打ち消した。
- 企業の業績回復や市場環境の改善を受け、輸送用機械、宿泊・飲食サービス、運輸・郵便といった業界で企業マインドが改善した。一方、生産は生産用機械などで前期より悪化した。

大和地域 AI インデックスの推移



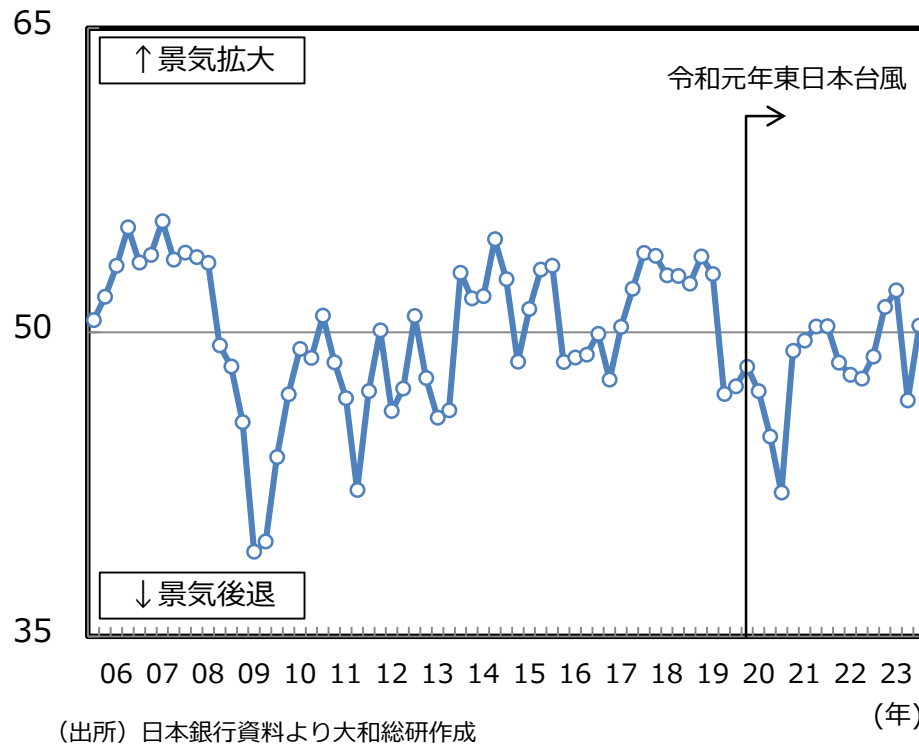
さくらレポートにおける分野別の判断

23 年 4 月	23 年 7 月
【総括判断】	→
持ち直している	持ち直している
【生産：生産用機械】	↓
増加している	増勢が鈍化している
【企業の業況感】	↑
横ばい圏内の動きとなっている	改善している

関東甲信越経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した(23 年 4 月:46.6→7 月:50.3)。
- 住宅投資が悪化したものの、企業マインドや生産が改善したため、全体としてインデックスは上昇した。
- 企業マインドの改善は、製造業・非製造業ともに経済環境の好転を反映している。生産は、輸送機械において前期は挽回生産に至っていなかったが、今期は改善している。一方、住宅投資の悪化は販売価格の上昇、住宅市場の需給バランスの悪化や金利の上昇によるものとみられる。

大和地域 AI インデックスの推移



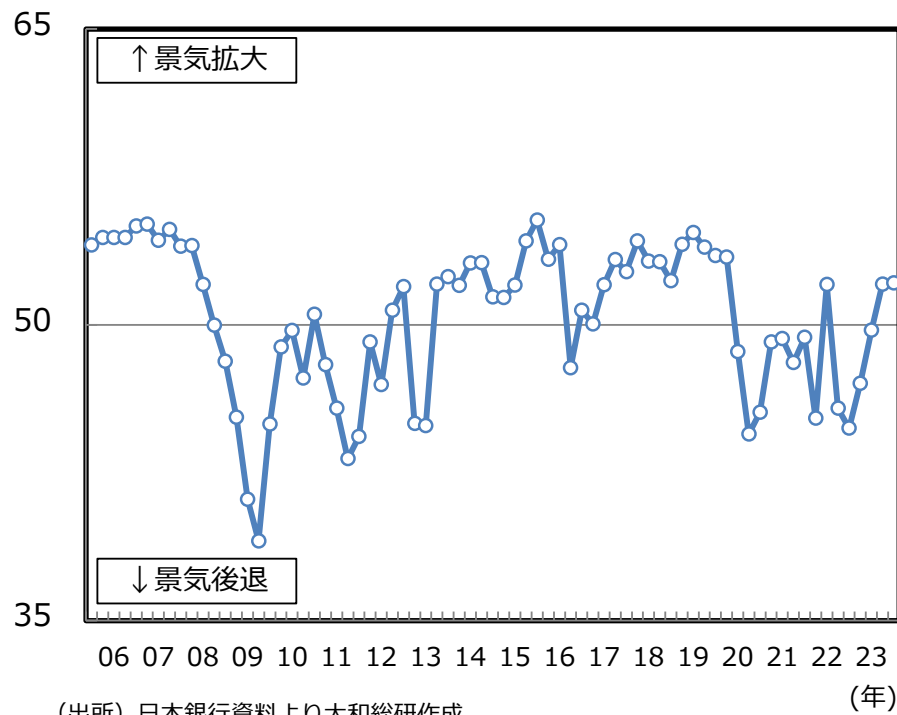
さくらレポートにおける分野別の判断

23 年 4 月	23 年 7 月
【総括判断】	↑
資源高の影響などを受けつつも、感染症の影響が和らぐもとで、持ち直している	持ち直している
【生産】	↑
汎用・生産用・業務用機械、電気機械を中心に横ばい圏内の動きとなっている	汎用・生産用・業務用機械、電気機械は横ばい圏内の動きとなっている。この間、輸送機械は緩やかに持ち直しつつある
【企業の業況感】	↑
小幅に悪化している	改善している

東海経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、前期から横ばいとなった (23年4月:52.1→7月:52.1)。
- 企業マインドや設備投資などが改善した分を生産の悪化が打ち消した。
- 設備投資は脱炭素化・経済活動の正常化・省力化を背景に改善、企業マインドも紙・パルプ、電気・ガス、自動車などで改善している。一方、5Gの普及やデータセンターの建設・更新需要の低迷で、半導体関連向けの生産が減少しているとの声もある。

大和地域 AI インデックスの推移



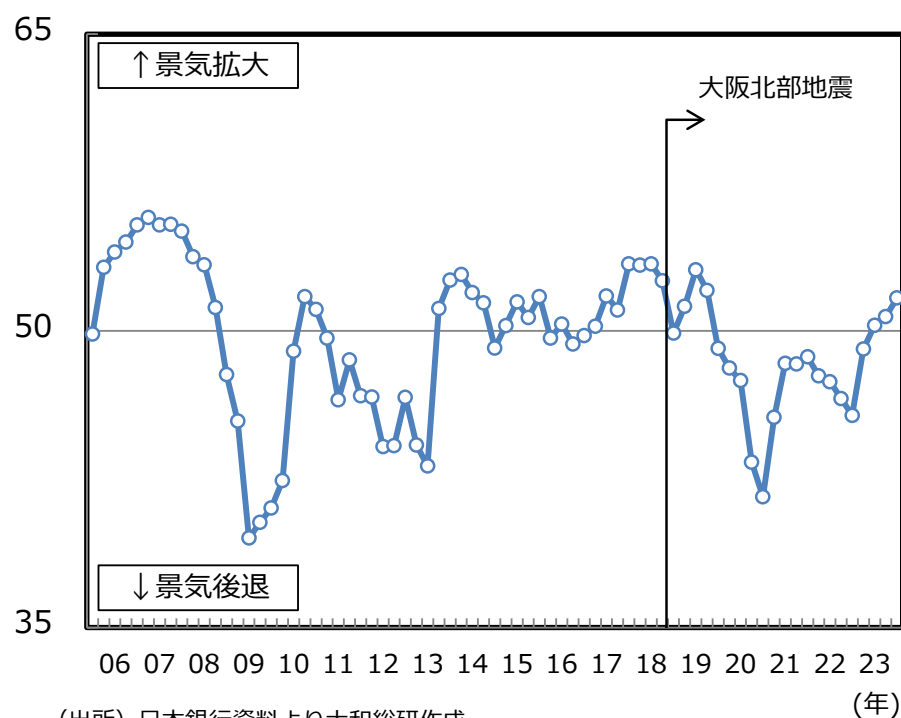
さくらレポートにおける分野別の判断

23年4月	23年7月
【総括判断】	↑
緩やかに持ち直している	持ち直している
【設備投資】	↑
緩やかに増加している	増加している
【消費】	→
緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している

近畿経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、4 四半期連続で上昇した(23 年 4 月:50.7→7 月:51.7)。
- 企業マインドや消費などの改善がインデックスを押し上げた。
- 企業マインドは宿泊・飲食サービス、食料品等で改善した。住宅投資は資材価格高騰に伴う住宅価格上昇を受けて持家の着工が減少する一方、富裕層を中心に投資用・セカンドハウス用のマンション購入を検討する動きが高まっているとの声もある。

大和地域 AI インデックスの推移



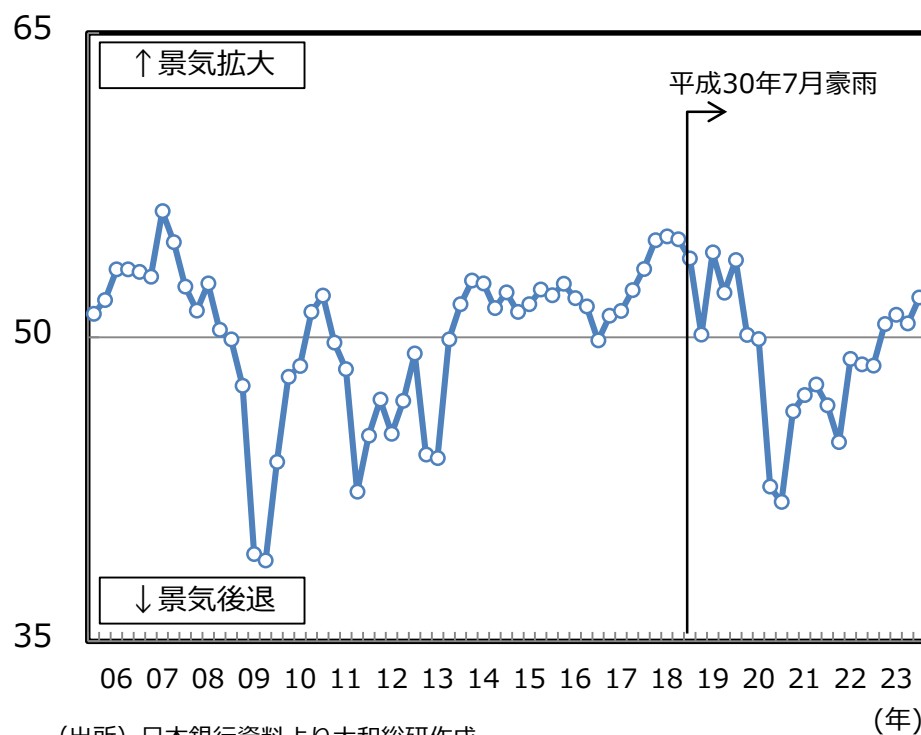
さくらレポートにおける分野別の判断

23 年 4 月	23 年 7 月
【総括判断】	→
一部に弱めの動きがみられるものの、感染症抑制と経済活動の両立が進むもとで、持ち直している	一部に弱めの動きがみられるものの、持ち直している
【企業の業況感】	↑
製造業は悪化している一方、非製造業は改善している	総じて改善している
【住宅投資】	→
緩やかに増加している	緩やかに増加している

中国経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した(23 年 4 月:50.7→7 月:51.9)。
- 企業マインドや消費の改善がインデックスを押し上げた。
- 企業マインドは石油・石炭製品、鋳業・採石業・砂利採取業、輸送用機械などの業種で改善した。消費はコンビニエンスストア売上高の回復基調や国内旅行中心の旅行取扱額の増加により改善した。

大和地域 AI インデックスの推移



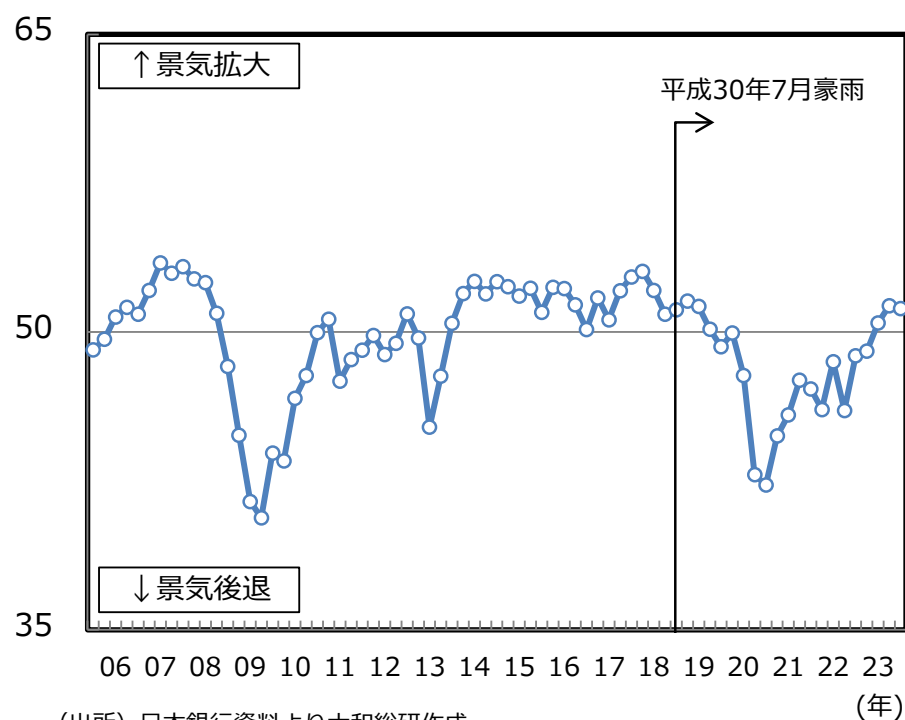
さくらレポートにおける分野別の判断

23 年 4 月	23 年 7 月
【総括判断】	↑
緩やかに持ち直している	持ち直している
【企業の業況感】	↑
幾分悪化している	小幅に改善している
【消費】	↑
持ち直している	緩やかに回復している

四国経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、5 四半期ぶりに下落した(23 年 4 月:51.3→7 月:51.2)。
- 設備投資が改善した一方で、消費が悪化した結果、インデックスは小幅に低下した。
- 設備投資については、経済活動が正常化する中、人手不足を背景とした省力化投資を積極化するとの声が聞かれた。一方、家電販売は値上げの影響等もあって来店客数が減少しており、販売は弱めの動きとなっている模様。

大和地域 AI インデックスの推移



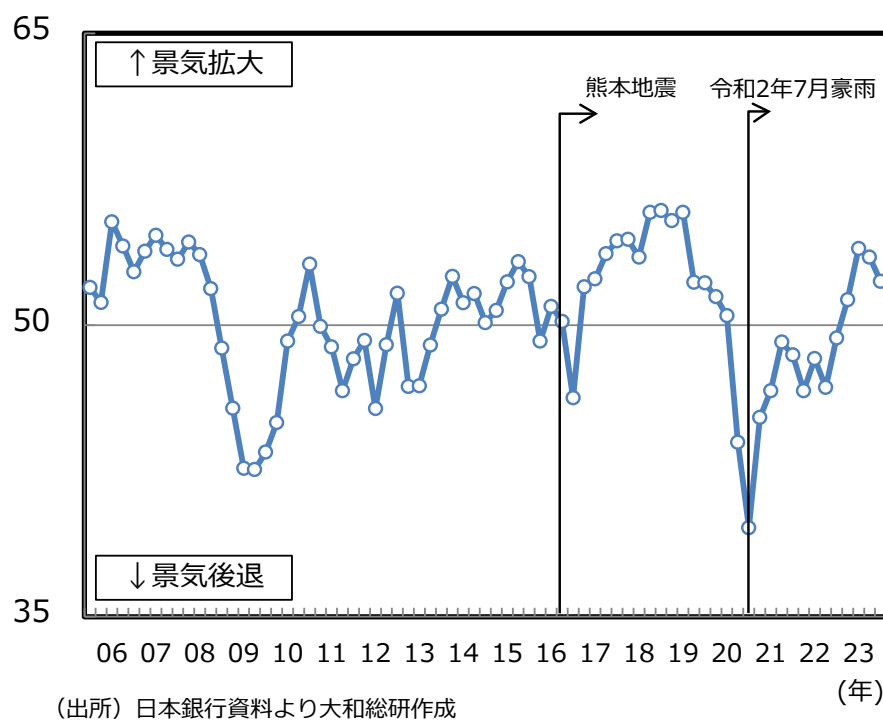
さくらレポートにおける分野別の判断

23 年 4 月	23 年 7 月
【総括判断】	→
緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
【消費：家電販売】	↓
底堅く推移している	このところ弱めの動きとなっている
【生産】	→
横ばい圏内の動きとなっている	横ばい圏内の動きとなっている

九州・沖縄経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で下落した(23 年 4 月:53.5→7 月:52.2)。
- 住宅投資は小幅に改善したが、消費及び生産などの悪化がインデックスを押し下げた。
- 消費では、旅行・観光関連等で改善は見られたが、物価高を背景とした生活防衛意識の高まり等を受けて家電販売が悪化した。また生産では、電子部品・デバイスや汎用・生産用・業務用機械において悪化した。

大和地域 AI インデックスの推移



さくらレポートにおける分野別の判断

23 年 4 月	23 年 7 月
【総括判断】	↑
持ち直している	緩やかに回復している
【消費：家電販売】	↓
横ばい圏内で推移している	弱めの動きとなっている
【生産：電子部品・デバイス】	↓
高水準で推移しているものの、一部に弱含みの動きがみられる	高水準で推移しているものの、一時的に弱含んでいる

本レポートに関して

- 人口減少と地域経済縮小の悪循環を断ち、**地方創生を実現することが**我が国の大きな課題となっている。地方創生の推進には、地域特性に即した政策の実行とともに、**地域の景気の現状を適切に把握することが必要**となる。
- 本レポートの特徴として、**AI モデル**を活用して地域別の景況感を示した「**大和地域 AI(地域愛)インデックス※**」を作成し、分析の基礎的な材料としている。
- 大和地域 AI インデックスを用いて**地域別の景況感をヒストリカルに把握**することにより、**各地域に根ざす金融機関や事業会社の経営**に資する情報を提供できると考えられる。
- 地域経済の実態をよりの確に、かつタイムリーに捉えるために、**インデックス算出のモデル等の見直し**は定期的に行っている。
- 本レポートは、2023年7月10日時点で取得可能なデータに基づいて、作成している。

※ 大和地域 AI（地域愛）インデックスの詳細に関しては、下記レポートを参照。

「大和地域 AI（地域愛）インデックスを用いた地域経済分析」

https://www.dir.co.jp/report/research/policy-analysis/regionalecnmy/regionalindex/20170713_012142.html

大和地域 AI(地域愛)インデックスの概要

- 大和地域 AI(地域愛)インデックスとは？

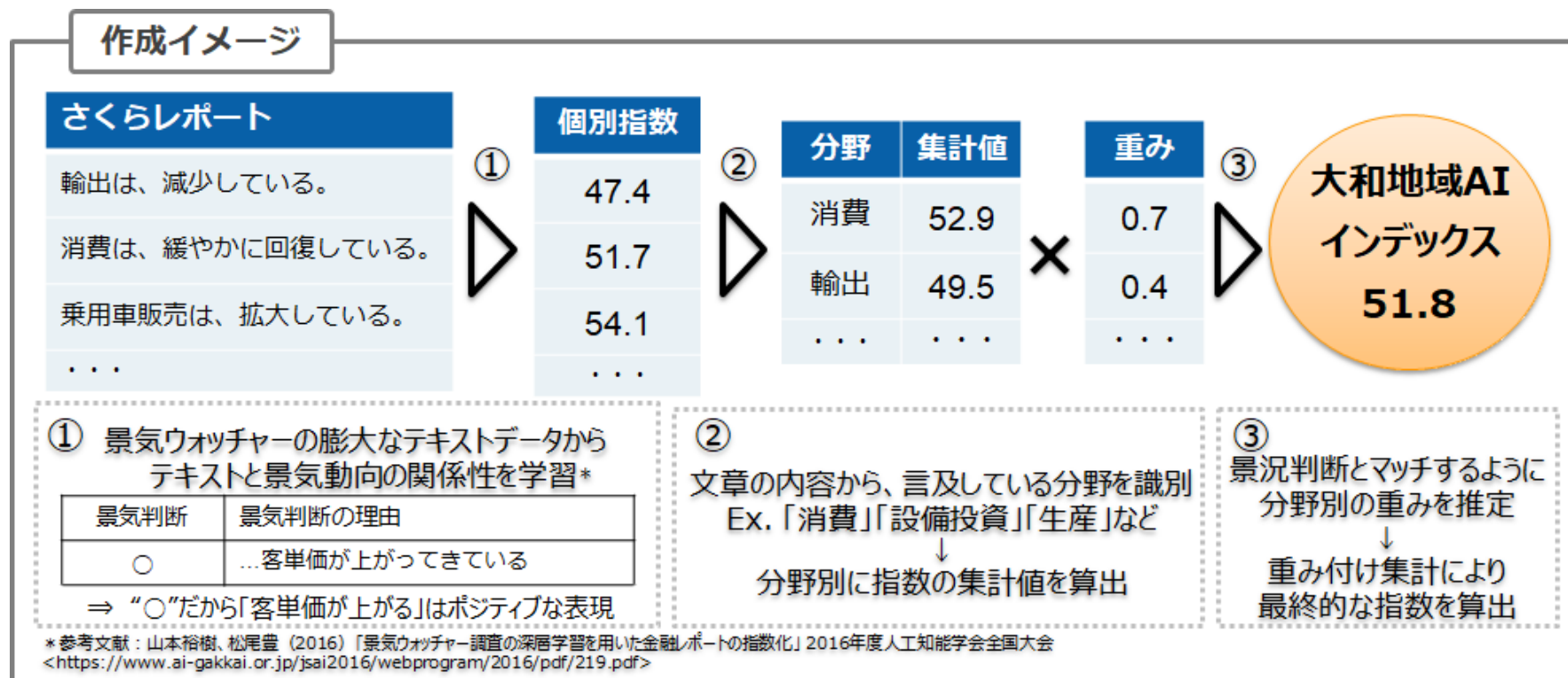
→ **地域別の景況感を AI モデルで算出した指数。**

※大和地域 AI インデックスは地方経済の景況感を正確に測るよう、定期的にリモデルを行う予定である。

- 具体的な作成手法は？

→日本銀行「地域経済報告（さくらレポート）」の**テキストデータ**を、**AI モデル**で指数化。

AI モデルは、景気ウォッチャーの膨大なテキストデータから、**テキストと景気動向の関係性を学習**。



日本銀行基準における地域区分

- このレポートにおける地域区分は日本銀行基準の地域区分に基づいて執筆している。
- P.5 以降の地域ごとの分析に関しても、原則、下記の地域区分ごとに行っている。

日本銀行基準における地域区分	
北海道	北海道
東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、 山形県、福島県
北陸	富山県、石川県、福井県
関東甲信越	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、 千葉県、東京都、神奈川県、 新潟県、山梨県、長野県
東海	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
近畿	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、 奈良県、和歌山県
中国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、 山口県
四国	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州・沖縄	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、 大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

(出所) 日本銀行より大和総研作成